

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和7年7月28日
NO.8 文責 菊谷

キャリア

地域の大人とともに考える②～手話出前講座～

人にやさしい帯広を考える

自己理解・自己管理能力（主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力）の育成を目指します。

6月23日（月）6年生児童を対象に「帯広ろう者協会」の講師の方と手話通訳の方々にお越しいただき、「手話講座」（2時間扱い）が行われました。

講師の方から、まず幼少期に耳が聞こえていないことに親や兄弟が気付くことになったできごとや、家族の話から講座がスタート。子どもたちは講師の先生の手元や口元を見て、簡単な挨拶や動作を覚えようと真剣な表情で聞いていました。また聞こえない人の暮らし方の工夫も学ぶことができました。

手話で伝える大切な3つのポイント

- ①相手の目を見る。
- ②気持ちをこめて（顔・おじぎ）
- ③伝えたいという気持ちが大切。

今回少しだけ手話を覚えましたが、手話ができなくても「伝えたい」という気持ちさえあれば

耳の不自由な人にも必ず伝わるということを知りました。子どもたちは「自分たちにもできることがあるかもしれない・・・」「生活の助けになることが知りたい」という思いをもち、誰もが過ごしやすい支え合っていける社会をつくることについて考えることのできる貴重な機会でした。

・・・児童のふりかえり・・・

- ・耳の聞こえない人の生活を今まで考えたことはなかったので、知ることができてよかった。後ろから声をかけてもわからないので、前に出たり、視界に入って自分の姿を見せたりしてから自分にできることをしようと思った。
- ・手話ができるようになりたいと思った。人のためにできることを考えた。
- ・手話ができなくても、紙に書いたり、自分なりのジェスチャーをやったりして伝えることができるようになった。自分に関係ないと思わないで、困っていたら助ける。
- ・自分がいきなり病気とかで耳が聞こえなくなるかもしれないし、家族が聞こえなくなるかもしれないので、そうなったときもちゃんと生活していけることがわかった。

